

No.274



青森県理学療法士会ニュース

2006年 新年の挨拶

県士会長 伊藤和夫

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素より、士会員の皆様には多大な御協力をいただき有難うございます。本年も何とぞ宜しくお願い申し上げます。

例年、一年間の士会活動を振り返りながらこの原稿を書いております。スケジュールで列挙するならば、三沢学会（総会）、日韓協定、卒業・入学式、新人歓迎会、（代議員）総会、PT 週間、各種（特別、現職者、症例）研修会、協会 40 周年記念、ブロック学会、忘年会、そして理事会等でしょうか。既にニュースで報告しましたように、今年は東北ブロック代表の任期が当番制で回ってきましたことにより、協会理事会に 2 回参加することになりました。ちなみに、昨年 12 月 3 日、拡大理事会が開催され参加いたしましたので、その報告を兼ねながら新年の挨拶にさせていただきます。

平成 18 年度、日本理学療法士協会では、活動の重点課題を以下の 8 項目に掲げました（順不同）。それは、訪問リハ専門機関の設置と推進、介護保険対応の取り組み（介護予防等）、診療報酬・介護報酬への取り組み、生涯学習システムの検討、会員証発行促進、10 万人プロジェクトの推進、教育施設評価基準の促進、学術活動（EBPT 等）の促進、です。各々の項目はお互いに関連があるものです。これらの根底にある社会背景には、人口高齢化、医療改革と介護保険、医療費削減、養成校増と会員増、今後の協会活動、等が考えられます。協会は 10 万人プロジェクトで、理学療法政策研究所（仮称）設立構想を検討しています。具体的にはまだ構想案の段階ですが、いずれこれからの協会をどのように運営していくのか既に検討が始まっているといえます。私たち士会でも検討が必要です。

しかし、いま私たちに差し迫っている課題は、『医療制度構造改革試案（厚生労働省、H17,10,17）』『医療制度改革大綱（政府・与党政策審議会、H17,12,1）』です。会議終了後、厚生労働審議官辻哲夫の講演が約一時間ほどなされました。以下その要点を報告いたします。なんと行っても始めに医療費削減ありきです。毎年一兆円が自然増とのことで、それを止めるために政策を打ち出しているとしています。今後は根本的に対処するために、平成 24 年度を目標にした「医療費適正化」作業が、平成 20 年から始まります。キーワードは、生活習慣病予防、在院日数の短縮、医療と介護の機能分担（急性期、回復期、在宅他）、連携パスなどです。特に計画は都道府県単位で計画実施するのが特徴としています（レセプトや必要な情報開示、都道府県特例適応の診療報酬など）。またリハに期待するものとして、急性期早期リハと在宅（自宅とは限らない、介護保険対応施設他、地域とも言っていました）の重視を強調していました。保険制度では後期高齢者医療制度（H20）などの新たな制度が導入されます。今後の医療・介護保険制度には必要な情報・知識を十分持ち合わせていくことが必要です。（「病院は退院する所」という言葉が妙に印象に残りました。）

今年度は、診療・介護報酬改定の年です。今後も改定がどんどんなされていくでしょう。自分の老後も合わせて、長生きすること、できることが世の中に受け入れられる社会を望みたいものです。当士会もまだまだ若い年代の多い会員構成になっています。今年も、若い皆様方の大いなる活躍と本会の発展を祈願いたします。

受賞者報告

東北メディカル学院 梅村孝博

(社)日本理学療法士協会、(社)日本作業療法士協会の設立 40 周年記念式典が昨年 10 月 28 日、都内で開催されました。

日本理学療法士協会を代表して中屋会長は「これから先の 40 年は全く異なる厳しい状況になる。活路を開くのは社会保障制度の方向性を見据えた協会の活動と、個々の理学療法士の資質に委ねられる」と指摘。また国が進めるヘルスプロモーションにおいて自立性ある専門職としての確立を目指し、「本日を新たな理学療法士像の構築に向かったの出発点にしたい」と挨拶されました。

日本作業療法士協会を代表して杉原会長は「会員の情熱や意欲に応えるべく、専門職としての質の確保を考え、生涯教育制度を定着させる」と挨拶。また地域での活動が問われていることから「身近な地域へ作業療法士の配置を推し進める」との考えを示し、「保健医療サービスの発展に寄与したい」と述べました。

式典では各表彰式もおこなわれ、青森県内からも各賞を受賞されました先生方がおりますので報告させていただきます。

・厚生労働大臣表彰受賞者：

青森県立保健大学健康科学部理学療法科 教授 伊藤 日出男先生

・感謝状：

財団法人黎明郷 理事長 福田 道隆先生
学校法人臨研学舎 東北メディカル学院教務部長 二唐 東朔先生

症例検討会印象記

～座長の立場から～

東北メディカル学院 庭田幸治

今回は症例発表会のセッションの司会、進行という立場から、ということで感想を述べさせていただきます。私も理学療法士になってから 8 年目となって、徐々にそういう順番が回ってきたのかという気持ちと、やはり勤まるかと心配する気持ちがありました。職業柄、似たようなことは毎日のようにやっているわけですから、それを活かせば何とかなるだろうという気楽な気持ちを優先させて引き受けさせてもらいました。

この検討会は気さくな場としたい、という主催者側の意向は聞いていたので、それに副うよう、発表者と参加者の介在役としての役割を果たすべく参加しようと考えていました。

それで、やってみた感想をいくつか挙げてみますと、やっぱり参加者の拳手は沈黙を破ってくれる神の手に見えます。司会にとって沈黙の時間はどう展開したらいいか考えるために頭をフル回転させなければならない時間で、なるべく早く終わって欲しい時間です。今回は拳手もよくあり、悩まずに済みました。

また、主役である発表者の方々は、普段学生と付き合っている私にとってはやはりずいぶん違いを感じさせてくれる立派なものでした。私以上に緊張していたと思いますが、発表の論点が明確に示されているものが多く、参加者との通訳の必要がない、十分なレベルにあったように思います。今回の発表で理学療法士としての力量は倍増したのではないのでしょうか？

そんな感じを持ちながら、ひとまず無事に検討会は終了となりました。要望もついでにふたつ述べさせて頂きますが、ひとつは新人の方からも質問、意見が欲しかったということ、もう一つは臨床経験が豊富な方の参加ももう少し欲しかったという点です。私もこの検討会への参加は青森に帰って4年目にして初めてということで、全く偉そうな口はきけないのですが、自分の施設の新人教育ばかりでなく、他の施設の新人理学療法士も皆で応援していくという、現代の社会背景に似たような意識が必要だと、今さらながら感じた次第です。

～発表者の立場から～

八戸赤十字病院 三浦潔子

12月4日、青森県立保健大学で行われた症例検討会に参加し、発表させていただきました。発表順が最後から二番目ということで、他の発表者が次々にリラックスしていく姿を見ながらドキドキしていました。

発表の準備段階で、症例についてまとめてみると反省するべき点が多々見えてきてきました。私が勤める八戸赤十字病院は入退院の回転が速いため、つい流れに身を任せてしまいそうになっていたのですが、流れの中でも患者様一人一人をしっかりと見つめていくように努めなければならないと感じました。発表では先輩方からアドバイスをいただき、今回発表した症例に対してだけでなく、他の患者様に対しても役立てていきたいと思いました。また他の方の発表からも参考になる事がたくさんあり、収穫の多い一日でした。フリーディスカッションでは、脳卒中急性期におけるアプローチの重要性や、転院時の申し送りの書き方、病院・施設間の連携、患者様とのコミュニケーションについて等が話題になり、反省させられる事ばかりで背筋が伸びる思いでした。

症例検討会に参加させていただき、日々の業務を見直す良い機会になりました。しかし反省したら実行しなきゃ意味が無い！患者様だけではなく、私自身も毎日が勝負です。

忘年会印象記

三沢市立三沢病院 原 悠子

12月3日、第3回青森県理学療法士会研修会を終え、吹雪の中、竹林坊にて行われた忘年会に参加させていただきました。

忘年会参加者は、13人でした。あれっ！？これだけ！？と思いながら、まわりを見渡せば、とても貫禄のある先生方ばかり…。新人（いつまで新人とってよいかは分からないが）の私がいていいのだろうかと思いつつも、乾杯の音頭で忘年会は始まりました。顔と名前が一致しないため初めのうちは戸惑いましたが、お酒が入るとともに、会話にも加わることができるようになりました。どの先生方も、おもしろく、気さくに迎え入れてくれたように感じました。普段はなかなか会う機会もないような先生方と一緒に、おいしい料理を食し、おいしいお酒を酌み交わしながら、会話をし、とても楽しく有意義な一時を過ごせました。また、一次会では飽き足らず、二次会（カラオケ）へと突入しました！！二次会では、中村先生の熱唱、山口先生のダンス、めったに歌う事のない庭田先生の歌声などなど、「飲む、歌う、踊る…」といった普段は見ることのできないような新たな一面を再び発見できました。

翌日の症例検討会におけるフリーディスカッションでも話題に上っていましたが、他職種との連携はもちろん、同職種であるPT間のコミュニケーション・密な連携ができるような関係作りをしていくことが望まれています。交流を深めるためにも、忘年会などの行事を積極的に利用していければ良いのではないかと思います。皆様方、敬遠しないで、どんどん参加していきましょう！！

- 研修会のご案内 -

第1回青森県医療・保健・福祉地域リハビリテーション研修会

社会局長 中村正直

青森県理学療法士会社会局介護保険部では、日本理学療法士会が行う公益事業「介護予防キャラバン」を受けて、下記の内容で地域リハビリテーション研修会を開催することになりました。関係者皆様はもとより広く県民の皆様に研修の機会を利用していただき、地域リハビリテーションの知識や内容をご理解いただこうと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

記

研修会名：第1回青森県医療・保健・福祉地域リハビリテーション研修会

開催日時：平成18年1月14日（土）

9時30分受付 15時終了

場所：青森県立保健大学

住所：青森県青森市浜館間瀬58-1 TEL 017-765-2000

内容：基調講演 2講演、シンポジウム（別紙参照）

主催：青森県理学療法士会

共催：青森県、青森県作業療法士会、社団法人日本理学療法士協会

会費：1000円

募集人員：約200名

募集期限：平成18年1月10日（火）まで

募集対象：青森県県民、医療・保健・福祉従事者、PT、OT

申し込み 〒035-0094 むつ市桜木町13番1号

むつりハビリテーション病院 リハビリテーション科 理学療法士 中村 正直

TEL 0175-24-1211 FAX 0175-24-4820

Email 理学療法士及びその他方 pt@rihabiri-mutsu.jp

作業療法士の方 ot@rihabiri-mutsu.jp

その他：この研修会はPT・OTの新人研修プログラムの単位として認定されます。

以上

<開催趣旨>

医療・福祉従事者や一般県民に対して、広く地域リハビリテーションを啓発し、地域リハビリテーション資源の質的向上を図る。また、介護予防の動向を知り、地域リハビリテーションの実際に展開してゆくことを目的に開催する。

<開催テーマ>：これからの介護予防とリハビリテーション

<プログラム>

9:30 受付

9:55 理学療法士会会長あいさつ

10:00～11:00 基調講演1 地域包括支援センターと介護予防 (1時間)

青森県健康福祉部介護保険課課長 福田 誠 先生

司会 青森県作業療法士会 学術部 原 長也 先生

11:10 ~ 12:10 基調講演 2 最近の介護予防と今後 (1時間)
帝京平成大学健康メディカル学部理学療法学科教授 青木 主税 先生
司会 青森県理学療法士会 学術局 村上 三四郎 先生

13:00 ~ 15:00 シンポジウム (2時間)

テーマ: 高齢者介護予防の取り組みと今後

座長 青森県理学療法士会社会局 中村 正直 先生

1. 市町村における介護予防事業の取り組みと問題点 (15分)

百石町立百石病院 理学療法士 板井 秀樹 先生

2. 介護予防の取り組みと問題点、保健師の立場より (15分)

青森県立保健大学健康科学部看護学科看護学科助手 保健師 工藤 奈織美 先生

3. 診療所における介護予防の取り組みと問題点 (15分)

八戸医療生活協同組合八戸生協診療所デイケア 作業療法士 大塚 基永 先生

4. 介護予防ケアマネジメント実際と問題点 (15分)

有限会社竹洞介護あしすと 介護支援専門員 竹洞 孝義 先生

ディスカッション (40分)

~ 理学療法士求人情報 ~

国民健康保険五戸総合病院

募集職種: 非常勤理学療法士・作業療法士 急募
待遇 詳細は面談にて

問い合わせ先: 〒039-1517 青森県三戸郡五戸町字沢向17-3

TEL: 0178-61-1200 (内線151)

FAX: 0178-61-1215

担当: リハビリテーション診療科 木村

介護老人保健施設 なみおか

職種: PT、OT、ST

勤務形態: 常勤

業務形態: 入所 通所 リハビリテーション

勤務時間: 月~金 9:00~17:00

その他: 勤務時間は相談に応じます。

問い合わせ先: 青森市浪岡大字杉沢字山元454-238

Tel: 0172-69-1120

担当: 事務長 成田まで

青森保健生活協同組合 あおもり協立病院

急 募

職種 理学療法士数名

勤務形態 常勤(総合リハA、回復期リハ) 新卒、既卒は問いません

待遇 当生協規定による(資格手当新設)

問い合わせ先 〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10

[TEL] 017-762-5500 [FAX] 017-729-3260

[E-mail] kyoritsu@aomori-h-coop.com

<http://www.aomori-h-coop.com/kyoritsu/>

担当(委細面談) リハ科技師長 伊藤まで

各局局通信

【学術局通信】

~ 新人教育プログラム修了者の認定手続きについて(重要) ~

学術局新人教育部 中江秀幸

新人教育プログラムの所定単位を取得された士会員の方は、必要書類を同封の上、下記までご郵送下さい。本年度分をとりまとめ、日本理学療法士協会へ申請・終了証発行を依頼します。協会から終了証が届き次第、勤務先へ送付いたします。送付は新年度平成18年4月中旬となる予定ですので、勤務先の変更が予定されている場合には、新勤務先も明記下さい。

必要書類

1. 生涯学習手帳の2~3頁部分の複写(氏名・会員番号。入会年度などが記載ある頁)
2. 生涯学習手帳の新人教育プログラムページ該当部分の複写

但し、検印を受けてある部分のみ有効となります。

新人教育プログラム単位の履修開始年月日と履修終了年月日を別紙に記載していただくか、あるいは新人教育プログラムの開始と終了となったテーマ欄部分に を記載して下さい。

平成17年度 新人教育プログラム修了認定の締切日：平成18年3月24日(金曜日)必着
期限を過ぎた場合には、次年度に再申請して頂く事になります。

「問い合わせ・送付先」

学術局新人教育部

〒039-1522 青森県三戸郡五戸町字苗代沢3番地638

学校法人臨研学舎 東北メディカル学院 理学療法学科 中江 秀幸

電話：0178-61-0606 FAX：0178-61-0034 e-mail:nakae@rinken.ac.jp

新人教育プログラム・生涯学習プログラムの単位認定について

学術局長 村上三四郎

年末から年度末にかけて青森県士会主催以外の研修会・講習会が多く開催されます。生涯学習手帳の単位として認められるか否かは、お手数でも下記あて先まで問い合わせ願います。また、検印の際は必ず本人が該当研修会に参加したことを証明できる書類をお持ち下さい。(受講証明書だけでなく、参加の領収書もあわせてお持ち下さい)、読み替えテーマについても同様です。よろしく願います。

〒039 - 1522 青森県三戸郡五戸町字苗代沢3 - 638
東北メディカル学院 理学療法学科 村上三四郎
E-mail : misawahpriha@yahoo.co.jp TEL 0178 - 61 - 0606 FAX 0178 - 61 - 0034

【財務部通信】

17年度会費納入について

会費自動引き落とし者へ

次の方は、下記へ振り込みをお願いします。

木野美也子、佐々木梨香

会費自動引き落とし以外者へ

次の方は、下記へ振込をお願いします(12月20日現在)

奈良 剛、成田 康子、三浦 純子、栗林 輝生、澤田 隆憲、岩織 好信、岩井 和広

獅子内 善行 12,000 円のみ

舘山 智格、大久保 千明、阿部 透 11,000 円のみ

会費納入方法は下記の通りです。早めに振り込んで下さい。

士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 黒石支店 店番 024 口座番号 0117013
名義名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 [平成17年度会費 1名分 佐藤洋 8692] 協会会員番号

と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下された施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても6月15日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。連絡を下されば引き落としの申込書を送らせて頂きます。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 国立青森病院 リハビリテーション科
佐藤 洋

TEL 0172-62-4055(271)

E-mail rehab@aomori.hosp.go.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

【ニュース編集部通信】

原稿受付に関するお知らせ

三八・上十三支部担当川口先生宛てのメールアドレスが下記の通り変更となっております。連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。ご不明な点につきましては、編集部長または各支部担当者までお問い合わせください。

次回の原稿締切は、平成18年1月24日(火曜日)です。
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当にフロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教（あおもり協立病院）

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号 TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: celeste_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のものであります。ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@sg-silver.or.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（弘前脳卒中センター）

〒036-8104 青森県弘前市大字扇町一丁目2番地1 TEL 0172-28-8220 FAX 0172-28-7780

E-mail: pt_staff@hirosakistroke-c.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長：梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員：伴 久美子（黒石病院）

工藤 寛教（あおもり協立病院）

藤田 俊文（弘前脳卒中センター）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

加藤 義人（なかざわスポーツクリニック）

久保 稔（八戸整形外科クリニック）

外交局広報部（HP担当）：安田 友久（青森労災病院）

編集後記

新年あけましておめでとうございます。就職してから、毎年の月日の移り変わりが早く感じられ、2005 年もあっという間に終わりました。昨年は、公私ともに多忙に充実した一年を過ごすことができ、各地への旅行や温泉巡りが趣味になり、心身ともにリフレッシュできました。年末年始もゆっくりのんびり過ごして鋭気を養い、今年も新しいことにも挑戦しつつ昨年以上に頑張っていきたいと思いません。県士会員の皆様、今年もよろしくお願い致します。
(文責：川口恵理)

奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216 南津軽郡藤崎町榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp